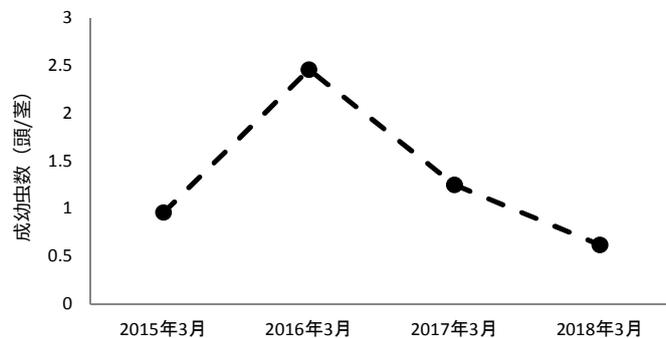


作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① カンシャコバネナガカメムシ		
3月の発生量（現況）	やや少		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	冬季に産み付けられた卵がふ化する時期であるため、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



カンシャコバネナガカメムシの3月の年間発生推移

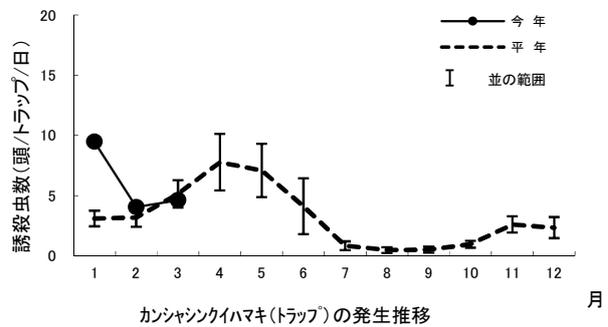
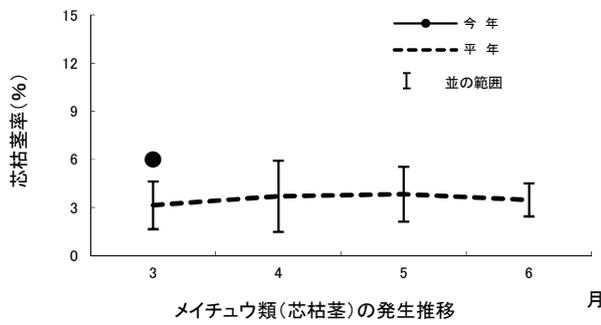
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成幼虫数（頭/茎）：0.6（前年1.3、平年20.3、判定「やや少」）

防除のポイント

- ・ 概ね4～6月に第一世代、7～8月に第二世代、9～10月に第3世代が発生するため、防除適期である4～5月上旬に茎当たり虫数が20頭を越えているほ場では、薬剤による防除を行う。
- ・ 前年の夏植や初回の株出しが被害を受けやすいため、葉鞘の隙間などをよく観察する。
- ・ 収穫後は直ちに畝間耕起し、発生源となる放置株をなくす。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
3月の発生量 (現況)	やや多		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)



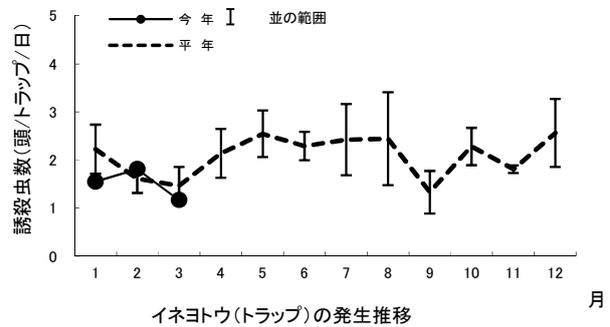
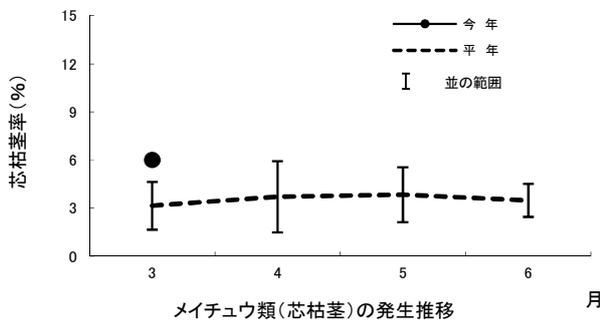
- ・ 調査作型：株出し、調査地域：石垣市
- ・ 芯枯率 (%)：6.0 (前年12.5、平年4.2、判定「やや多」)
- ・ 芯枯茎内幼虫の割合 (%)：カンシャシクイハマキ93.9、イネヨトウ6.1
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数 (頭/日)：4.6 (前年5.2、平年4.1、判定「並」)
- ・ 防除員による報告：多発生 (波照間島、与那国島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植付時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・ 平成29年度病害虫発生予察注意報第6号参照。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)		
3月の発生量 (現況)	並		
4月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)



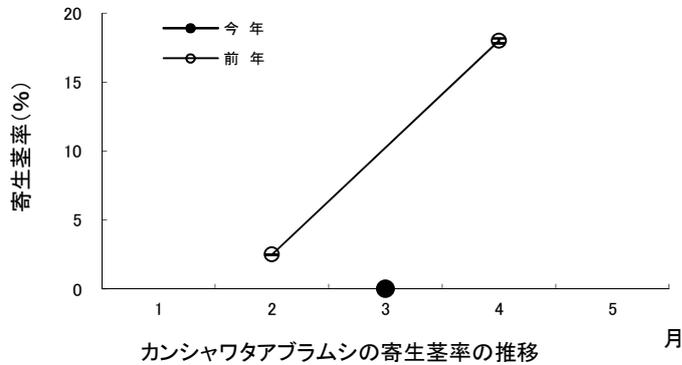
- ・ 調査作型：株出し、調査地域：石垣市
- ・ 芯枯茎率 (%)：6.0 (前年12.5、平年4.2、判定「やや多」)
- ・ 芯枯茎内幼虫の割合 (%)：カンシャシンクイハマキ93.9、イネヨトウ6.1
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数 (頭/日)：1.2 (前年0.3、平年1.5、判定「並」)
- ・ 防除員による報告：多発生 (波照間島、与那国島)

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 定植及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・ 平成29年度病害虫発生予察注意報第6号参照。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	カンシャワタアブラムシ		
3月の発生量（現況）	(発生なし)判定不可		
4月の増減傾向			
増減傾向の根拠	データ蓄積不足のため、判定保留。		

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 調査作型：夏植、調査地域：石垣市
- ・ 寄生株率（%）：0

防除のポイント

- ・ 多発すると吸汁害及びすす病によりさとうきびの生育が遅延するため、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
- ・ 薬剤散布の際は、収穫予定のさとうきびや近隣作物へのドリフト（飛散）に留意する。
- ・ 多発時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。
- ・ 捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる。

